

2023(令和5)年度の教育活動等に対する学校評価

2024年 3月 5日現在
学校法人 堀口学園
幼保連携型認定こども園
昭苑こども園

1. 教育・保育の方針と目標

～未知なる子どものあらゆる可能性の開花をめざして～
昭苑こども園は学校法人堀口学園の創設理念である「神を愛し、自然を愛し、人間を愛する」というキリスト教精神と、「自分が神に愛されるように、あなたもあな
たの隣人を愛しなさい」と聖書に記された隣人愛の教えを継承しつつ、モンテッソーリ保育を取り入れ、幼保連携型認定こども園の教育保育要領に則り、乳幼児の
達成課題を年齢別・発達段階別に編成した保育プランやカリキュラムを日々の教育・保育の中で実践していきます。
～こんな子どもを育てたい：心あそび、カラダよろこぶ昭苑こども園の子どもたち～
5つのH(Health, Hand, Head, Heart, Harmony)を大切に、歌って踊っていつも元気な子、何にでも興味をもつ一生懸命な子、人の気持ちがわかるやさしい子、
個性豊かで楽しい子

2. 2023年度の重点課題(事業計画)

- I 保 育 ①認定こども園として質の高い教育保育について再確認する
II 組織運営 ②定員を満たす園児数を確保する
III 人 事 ③教職員の育成定着を図る
IV 施 設 ④教育保育の環境を充実させる
V 財 務 ⑤財政基盤を強化する
VI その他 ⑥施設内の連携により子育て支援施設としての総合力を高める

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上：合格ライン)、D(50点以上)、E(50点未満：手つかず項目)の6段階とし、D以下の
項目は次年度の課題として必ず繰り返すものとする。評価にあたっては教職員の個人的な解釈に左右されないように、園としてのルーブリック(評価の指針)を示
し、それを参考に自己評価を実施する。

評価項目	重点課題	具体的取組	自己評価(昭苑こども園)				学校関係者評価		
			評価	評価のためのルーブリック(指針)	%	こども園としての反省と課題	評価	%	学校関係者の所見とアドバイス
I 保 育	①認定こども園として質の高い教育保育について再確認する	・安心で安全な保育で保護者の信頼を高める	B	S 安心安全な保育で保護者の信頼を高めた	5	保護者の信頼は保育の質の高さだけでなく、安心	B	0	・日々安心安全な保育に尽力されている。質より安心、安全を第1にして欲しい。信頼を高めるためには一人一人を大切にし、心のつながりを大切にすること。
				A 安心安全の保育が実践されている	30	安全な保育の日々の実践であることを確認した。		35	
				B 安心安全の保育について周知されている	45			65	
				C 安心安全の保育について学びの場があった	5	〈課題〉		0	
				D 園として取り組みが不十分	10	・職員の連携強化(個々との愛着関係を高めるため)		0	・連携はあらゆる面で必須。この課題の克服と実践
				E 園として取り組めていない	5	・職員の増員		0	強化に期待する。
		・子どもの人権や権利の擁護について理解を深める	A	S この項目について特筆すべき点がある	5	毎日の朝礼、終礼や職員会議等で基本理念の音読	A	0	・最も大切な人権、理念を深化される取り組み評価
				A 子ども人権や権利擁護の理解が深まった	40	により理解が深まっている。		80	する。
				B 新学期研修の内容が現場に生かされている	20	〈課題〉		10	・基本理念音読と共に内容の理解、保育実践への
				C 新学期研修の内容が教職員に理解された	30	・全職員のさらなる理解と現場での実践		10	浸透が大切である。
				D 園として取り組みが不十分	5			0	
				E 園として取り組めていない	0			0	
		・保護者に保育を伝える(曹役の様子、目には見えない成長、昭苑こども園の魅力)	B	S 伝えることが言語化され共有されている	10	保育カリキュラムの配布やインスタグラムの配信、	B	0	・積極的に状況報告発信され、聞かれたが園を具体
				A 何を伝えるかについて周知されている	30	また、昇降口にホワイトボードにて日々の保育の		35	化している。保護者が園での様子を知ること
				B 何を伝えるかについて話し合いができた	25	様子を伝えられている。		65	子どもとの会話の助けとなっている。
				C 保護者に保育を伝える取り組みがなされた	35	〈課題〉		0	・インスタ配信の頻度が毎日できるようにしたり
				D 園として取り組みが不十分	0	・バス通園の保護者の方へのさらなる工夫		0	配信のクラス差を減らすように工夫する。
				E 園として取り組めていない	0	・保育者の子どもの思いをくみ取れる力の養成		0	
		・子どもの主体性を育む保育について園内の共通理解を深める	B	S 善段の保育で実践的に取り組めている	10	主体性を育むポイント(関係性の深まりの重要性)	B	0	・配役決めなど職員の細やかな配慮、主体性を育む
				A 善段の保育に取り組入れる努力をした	25	の理解が広がり、実践に取り入れつつある。		35	為の努力を感じられた。
				B 子どもの主体性を育むポイントを理解した	30	〈課題〉		65	・職員が気長に待ち、見守る余裕を持つように
				C 子どもの主体性を育む保育について理解が進んだ	25	・全職員周知に向け園内研修会の実施		0	するとさらによくなると思う。(理想に思う)
				D 園として取り組みが不十分	10	・今後の行事のあり方の見直し		0	
				E 園として取り組めていない	0			0	
		・エール昭苑との連携によりインクルーシブ保育を推進する	R	S この項目で特筆すべき点がある	5	月1回、園内保育療育連携会議、二法人合同保育	A	0	・時代の流れに沿ってなされている。個々の園児に
				A インクルーシブ保育が園内で推進されている	15	療育連携会議によりインクルーシブ保育について		55	沿った支援を行っている。この取り組みは高評価
				B インクルーシブ保育の実践に向け努力をした	35	の理解が深まり、実践に向け努力している。		45	・会議等職員の負担になっていないといいがと

			D	C	インクルーシブ保育について理解が進んだ	45	《課題》	A	0	感じる。
				D	園として取り組みが不十分	0	・職員の意識転換（双方の発達支援のあり方の理解）		0	
				E	園として取り組めていない	0	・保護者への啓蒙		0	
		・園行事を見直す①子どもの主体性、②インクルーシブ保育、③平日開催に伴う職員の業務省力化、④教育保育の質の維持	B	S	この項目で特筆すべき点がある	5	平日開催化された園行事など一部改善がなされた	B	0	・様々な行事に参加できることがいい。
				A	園行事の改善がみられた	25	が、まだ試行錯誤中、改善途中である。		35	・反省を生かし改善点は検討していくとよい
				B	園行事が一部改善した	30	《課題》		65	・日々の積み重ねで職員が無理のない範囲でできるとよい
				C	園行事改善への取り組みがなされた	30	・職員同士の対話と職員共通認識の形成		0	
				D	園として取り組みが不十分	10			0	
				E	園として取り組めていない	0			0	
Ⅱ 組織運営	②定員を満たす園児数を確保する	・途中入園児の獲得（乳児一時預かり保育の改善、ひよこ教室から満3歳入園児の継続）	B	S	この項目で特筆すべき点がある	5	満3歳も組は1月6名充足できた。	B	0	・増加は取り組み成果であり素晴らしい。
				A	途中入園児で定員に近い園児数になった	20	0歳うた組は10名確保。		20	・保護者ニーズに対応している。
				B	途中入園児で定員を満たした学年があった	30	4月137名→1月159名 22名の増加		80	
				C	途中入園児を獲得できた	25	《課題》		0	
				D	園として取り組みが不十分	20	・適正規模の割り出しと定員変更の検討		0	
				E	園として取り組めていない	0	・一時預かり保育の在り方の改善		0	
		・次年度新入園児の獲得（近隣市からの1号幼児の獲得）	C	S	次年度は定員を満たしてスタートできる	5	地域新聞で8月に3.5キロ圏内にチラシ折込みを	C	0	・少子化傾向強まる中各種取り組みを行うことが
				A	新入園児の獲得で特筆すべき点があった	5	実施したが効果がみられなかった		10	大切だと思う。
				B	近隣市1号幼児の入園が増えた	0			35	・紙ベースと共に今の親世代に合わせたネット
				C	近隣市1号幼児獲得の良体策を実践した	50	《課題》		55	の活用にも重視したらよいと思う。
				D	園として取り組みが不十分	30	・こどもそだてルームとの連携		0	・乳児検診など町との連携に加えグループとして
				E	園として取り組めていない	10	・他市保健センターとの連携（乳児検診等）		0	の強みを生かした発信努めると効果が出ると思う。
Ⅲ 人事労務	③職員の育成・定着を図る	・乳児棟の正職員の割合を30％（各学年1名）に引き上げる	B	S	この項目で特筆すべき点がある	10	幼児、4.5歳児クラスが1クラス編成になり乳児	A	0	・働き方改革を推進しつつ課題クリアに尽力して
				A	乳児棟正職員の率が30％を超えた	0	各クラスに1名、正職員の主担任を配置すること		90	欲しい。
				B	乳児棟正職員の率が上がった	25	が出来た。		10	・雇用形態の幅を広げることにより機会が増える
				C	乳児棟正職員獲得に努力している	30	《課題》		0	こと嬉しい。
				D	園として取り組みが不十分	35	・長時間パート職員の純正職員、時短正職員への		0	・働きやすさ＝働きがいに着目した取り組みに
				E	園として取り組めていない	0	移行		0	力を入れること課題と思われる。
		・ノーコンタクトタイム休憩を徹底する	B	S	ノーコンタクトタイム休憩が園全体に定着した	20	自分の持ち場を離れて休憩を取ることが園内に	B	0	・大切なノーコンタクトタイム定着しつつある
				A	ノーコンタクトタイム休憩が部分的に定着した	10	定着しつつある。		20	ことうれしい。
				B	ノーコンタクトタイム休憩が広まった	30	《課題》		80	・職員意識の不統一さの改善は、大変だが気にな
				C	ノーコンタクトタイム休憩徹底への呼びかけがなされた	20	・不統一な職員意識の改善		0	る点である。
				D	園として取り組みが不十分	20	・休憩の取り方の周知徹底		0	
				E	園として取り組めていない	0	・乳児棟終礼の場所の再検討		0	
		・不安解消ガイドブックの活用により職員の定着を図る	C	S	職員の定着で特筆すべき点がある	5	不安解消ガイドブックの配布。	B	0	・法人としてガイドブックが出来たこと、第1歩
				A	ガイドブックが活用されている	25	二人合同働きやすさ検討委員会メンバーによる		0	だと思う。
				B	ガイドブックの周知がなされた	20	今年度新規採用職員への個別面談を実施した。		65	・定期的な面談で職員の思いを吸い上げることで
				C	ガイドブックの配布があった	30	《課題》		35	不安解消につながるのではないと思う。
				D	園として取り組みが不十分	0	・次年度中堅職員への面談を実施		0	・いつでも誰にでも気軽に話せる雰囲気作りに努め
				E	園として取り組めていない	0			0	ることが大切だと思う。
		・緊急時の事故怪我対応マニュアルの活用により、緊急時や事故後の対応について曹段から学びを繰り返し、いざという時に備える	B	S	緊急時や事故後の対応に心配なく取り組める	5	今年の猛暑の中熱中症対策はマニュアルに沿って	B	0	・実践を伴う取り組みが必要かと思う。
				A	マニュアルが繰り返し周知された	20	皆で確認しながら実施することができた。		20	・消防署員、保健所など専門家からアドバイス
				B	マニュアルが部分的に周知された	40	部分的なマニュアルの周知はなされた。		80	を受け実技研修を行うとよいと思う。
				C	マニュアルの一部を確認できた	15	《課題》		0	
				D	園として取り組みが不十分	20	・全編の読み合わせ		0	
				E	園として取り組めていない	0	・ヒヤリハットのシステム化（二法人共通）		0	
Ⅳ 施設	④教育保育の環境を充実させる	・2号館の教材整理の年間計画を立てて実施する	B	S	この項目で特筆すべき点がある	0	計画に沿って実践整理されつつある。	B	0	・計画的に行えていいること素晴らしい。
				A	年間計画が実践され、整理が進んだ	20			10	・職員一人一人の意識を高めていくこと大切
				B	年間計画が実践された	30	《課題》		90	一部の職員にならないようにしてほしい
				C	年間計画が作成された	25	・計画の全園的な周知		0	
				D	園として取り組みが不十分	25	・取り組みが一部の職員にならないような工夫		0	
				E	園として取り組めていない	0			0	
		・1日1整理、1日1大掃除の徹底により園内美化を推進する	C	S	この項目で特筆すべき点がある	5	整理や大掃除の周知がされ、職員の意識が高まり、	B	0	・昇降口付近ものが渋滞していること気になる
				A	整理や大掃除が行き届いている	5	普及しつつある。		0	ことある。危険のないようにして欲しい。
				B	整理や大掃除が普及しつつある	35			55	・誰にでもできることはボランティアなどでも
				C	整理や大掃除の周知がなされた	20	《課題》		45	よいのではないかとと思う。
				D	園として取り組みが不十分	35	・周知の徹底に向けキャンペーンなどの検討		0	
				E	園として取り組めていない	0	・職員同士の話し合いによる実施		0	
		・園庭の修繕を計画的に進める（幼児園庭の樹木伐採、乳児園庭の砂場新設、幼児園庭上段のビオトープ化）	A	S	この項目で特筆すべき点がある	0	幼児園庭の樹木の伐採をしたり、乳児園庭に砂	A	0	・ビオトープ化の進展に期待する。園児だけでなく
				A	園庭の修繕により環境改善が見られた	45	場の新設が実行された。		90	学童児にも有難い。
				B	園庭の修繕が実行された	30			10	・シルバー人材、ボランティアなど地域住民の
				C	園庭の修繕が計画された	15	《課題》		0	活用を継続的に図ることで地域と交流しながら
				D	園として取り組みが不十分	10	・幼児園庭上段のビオトープ化の推進		0	継続的に管理もできたらよいのではないかとと思う。

			E	園として取り組めていない	0		0
		・園庭固定遊具の定期点検の実施方法を改善する	S	この項目で特筆すべき点がある	0		0
			A	定期点検の方法が大きく改善された	15		0
			B	定期点検の方法が改善された	30		35
			C	定期点検の改善方法が検討された	35	C	65
			D	園として取り組みが不十分	20		0
			E	園として取り組めていない	0		0
			S	この項目について特筆すべき点がある	5		0
			A	法人の多機能化により財務基盤が安定した	15		0
			B	法人の多機能化により財務基盤が改善した	30		65
			C	法人の多機能化が図られた	45		35
			D	法人として取り組みが不十分	5		0
			E	法人として取り組めていない	0		0
V 財務	⑤法人の多機能化により財務基盤の安定を図る		S	この項目について特筆すべき点がある	5		0
			A	法人の多機能化により財務基盤が安定した	15		0
			B	法人の多機能化により財務基盤が改善した	30		65
			C	法人の多機能化が図られた	45		35
			D	法人として取り組みが不十分	5		0
			E	法人として取り組めていない	0		0
			S	この項目について特筆すべき点がある	5		0
			A	各部門の理解がお互いに進んでいる	20		0
			B	各部門の活動報告が各部門に周知された	15		50
			C	各部門の活動報告がなされた	45		50
			D	園として取り組みが不十分	10		0
			E	園として取り組めていない	5		0
			S	この項目について特筆すべき点がある	15		0
			A	地域ボランティアの活用で活性化された	10		15
			B	地域ボランティアの活用を実施した	35		85
			C	地域ボランティアの活用を計画検討した	25		0
			D	園として取り組みが不十分	15		0
			E	園として取り組めていない	0		0
			S	この項目について特筆すべき点がある	5		0
			A	地域アビールの実践が進んだ	30		10
			B	地域へのアビールを一部実行した	45		90
			C	地域へのアビールを計画した	10		0
			D	園として取り組みが不十分	10		0
			E	園として取り組めていない	0		0
VI その他	⑥法人内の連携により子育て支援施設としての総合力を高める	法人内連携会議における活動報告を通して、各部門の役割をお互いに理解する	S	この項目について特筆すべき点がある	5		0
			A	各部門の理解がお互いに進んでいる	20		0
			B	各部門の活動報告が各部門に周知された	15		50
			C	各部門の活動報告がなされた	45		50
			D	園として取り組みが不十分	10		0
			E	園として取り組めていない	5		0
			S	この項目について特筆すべき点がある	15		0
			A	地域ボランティアの活用で活性化された	10		15
			B	地域ボランティアの活用を実施した	35		85
			C	地域ボランティアの活用を計画検討した	25		0
			D	園として取り組みが不十分	15		0
			E	園として取り組めていない	0		0
			S	この項目について特筆すべき点がある	5		0
			A	地域アビールの実践が進んだ	30		10
			B	地域へのアビールを一部実行した	45		90
			C	地域へのアビールを計画した	10		0
			D	園として取り組みが不十分	10		0
			E	園として取り組めていない	0		0

【園内職員自己評価を振り返って】	改善、対策案
◎自己評価の判定のみで改善点の提案が出来ない職員がいる	⇒自己評価について事前、事後の全体説明会を実施し正しい理解を共有できるようにする。
◎人員の増員のみを唯一の解決策として提案する職員がいる。	⇒職員配置基準や保育定数の再確認。 保育における職員間での互いの連携、チームとして働くことの重要性について確認を図る。
◎回答率が低い	⇒普段からの職員との対話を増やし、みんなで園の改善に取り組もうとする意識の定着を図る。
◎園児募集など、外部へのPR活動が園内職員に伝わっていない	⇒園内での情報共有システムの再検討を図る。

●自己評価取りまとめ担当者：

園長 堀口義也
主幹保育教諭(幼児) 土屋木緒子
主幹保育教諭(乳児) 喜多山文子

●学校関係者評価委員：

幼児組保護者 高徳葉美子(2023年度連絡委員・幼児組保護者代表)
乳児組保護者 金子粧子(2023年度連絡委員・乳児組保護者代表)
学校法人堀口学園評議員(卒園児) 日笠智一
地域住民 清口享(東酒々井1・3丁目自治会会長)
地域住民 和田葉穂子(酒々井町民生委員)
青少年健全育成関係団体代表 小早稲美穂(卒園児、元連絡委員会会長)
接続校の教職員 戸谷友紀(小学校教諭)
その他の学校関係者 朝日未夏(小学校教諭)、
松田裕児(成田市社会福祉協議会)
太田礼子(社会福祉法人愛の園福祉会 マリヤこども園 園長)